

技術の創造研究会 八ツ場ダム見学印象記

技術の創造研究会会長
（株）畑村創造工学研究所代表
畑村洋太郎

見学日 : 2015年7月7日(火) 13:00~14:40 曇り時々小雨
見学場所 : 八ツ場ダム
見学者 : 畑村洋太郎 (技術の創造研究会会長), 技術の創造研究会会員 計 45 名
案内 : 国土交通省関東地方整備局八ツ場ダム工事事務所
記録 : 2015年7月12, 13, 22日

【概要】

7月6日(月)から軽井沢万平ホテルで技術の創造研究会の研修会を行った後、八ツ場ダムを見学した。11:50に万平ホテルをバスで出発し、13:00に道の駅八ツ場ふるさと館に到着した。その会議室で、八ツ場ダムについての説明を聞いた。13:20にそこを出発し、建設中のダムを見学した。ダムの中間ぐらいの高さのところと、ダム天端とほぼ同じ高さのところから見た後、周辺を車で走って住民の移転や鉄道・道路の移設などがどのように進んでいるか、八ツ場ダム工事の全体像を見た。14:40に終わり、2時間程バスに乗り、高崎駅で解散した。

【見学の動機】

八ツ場ダムは計画が始まってから長い間ダム本体の建設が行われず、紆余曲折を経て、約70年経ってダム本体の工事が始まった。技術の創造研究会会員のほとんどが現地の状況を知らないため、現地やダム工事現場を見ておくといいのではないかと思い、国交省に依頼して今回の見学が実現した。

【八ツ場ダム工事】

八ツ場ダムの構造は重力式コンクリートダムで、堤体の高さは116m、長さは291mである。高さに対して約2.5倍の幅のダムである。堤体の総体積は、91万m³、貯水量は約1億m³である。貯水量と堤体の体積は1:100になっていると考えればよい。総事業費は4600億円で、ダム本体の工事費は350億円である。

1947年にカスリーン台風で利根川や江戸川などが決壊し、東京の東部一帯が水没し、数百人が亡くなるという大災害が起こったが、これをきっかけにダムの計画が始まった。このような大災害を防ぐことが最大の目的で、それに工事費などを分担してもらうために、利水を考えて全体計画が立てられたが、ダムの必要性を巡って多くの意見の衝突があった。ダムの付帯工事が始まったが、今から6年ほど前に民主党が政権を取り、不要な公共工事の典型としてダムの建設中止を決定した。その後、国全体を考えたときにこれはどうしても必要だということで、民主党政権時代に見直され、工事が再開されたという日くつきのダムである。

今回見学したときは、ダムの本體工事は始まったばかりだったが、周辺の村落の移転は全て終わっていた。集落の移転先は、元々の集落の場所からほぼ垂直にずり上ったところである。面白かったのは、ドイツで見たことがあるようなクラインガルテン（市民農園、農地の賃借）のようなものが作られていたことである。また、道の駅は数年前に来た時もそうだったが、既に根付いていた。鉄道の移設は終わり、高所の駅が遠くに見えた。温泉旅館も移転して、既に営業しているようだ。

今回直接見ることはできなかったが、本川の水は既に導水路を流れているとのことだった。

重力式コンクリートダムを作るのだから、岩とコンクリートが密着しなければならない。そこで、岩との接合部まで表面の土砂を剥ぎ取る工事が行われていた。実際に工事の現場近くの見学台から見ると、ダム本體の真上のところに左岸東岸を繋ぐ運搬用ケーブルが張られていた。ただし、ここではまだ、コンクリートなどの運搬は始まっていなかった。

私がこの工事現場を見るのは、4回目だと思う。始めの2回は工事の細かいところまですべて見る事ができた。そのときは導水路の中まで見る事ができたが、今回の見学では既に本川の水が導水路を流れているため、見る事はできなかった。また、工事が始まっているため、工事現場そのものに立ち入ることができないので、現場周辺からの見学となった。見学する時期を考えないと先方に迷惑をかけるだけではなく、自分たちが理解するために十分な見学をすることができないということも学んだ。

【見学で考えたこと】

- “国土を守る” という意識

八ツ場ダムは、1947年のカスリーン台風がきっかけで立案され、紆余曲折があつてようやくダム本體工事までたどり着いた。完成予定は2020年である。計画が始まった時からなんと70年もかかっている。このような長期間、計画されながら工事が実施されないというのは、どうかしていると思う。

この間、日本全体が不思議と自然災害の少ない安寧期だったことが幸いだった。昼寝をしても、東京東部の水没などの大災害が起こらずに済んだことが不思議なくらいだ。このように危険を知りながら、それに社会全体で対応していないような状態は、とても異常なことである。こんなことでいいのだろうか。僥倖頼みの国土対応しかできない国民の考え方をもっとまともな方向に持っていかなければならないと思う。

特に、東日本大震災の後、日本の国土は安寧期が終わり、動乱期に入ったように見える。最近も御嶽山に始まって、色々な山が動き始めている。浅間山もその一つだ。浅間山の活動が活発になった時のことを考えると、この八ツ場ダムのような治水施設はこれで十分なのだろうか。そんな心配が次から次へと湧いてくる。

私は福島原発事故の政府事故調の委員長を務めた。その時に強く感じたのが、日本国民全体の傲慢と脳天気である。ここでも全く同じ国民性が感じられる。少しでもこれを改める努力をしなければならぬのではないかと。

- ダム湖を横切る橋

ダム湖を横切る橋がいくつもあつたが、現在の下の川から見るととても美しい。細くて高い橋

脚、高さは 100m 近くあろうか。その上方に湛水時の水面の表示がある。はるかに上だ。この湖面を横切る橋は 3 本あったように思うが、どの橋も余り高くなく支柱の斜張橋になっていたように思う。

それにつけても醜いのが、付け替えた JR の吾妻線のコンクリート橋だ。不必要に太いコンクリートの斜張梁が場違いの強さを主張している。ダム全体を設計する土木屋と鉄道を通すことしか考えない鉄道土木屋との差が出ているのかもしれない。少なくともこのような鉄道橋は吾妻渓谷の観光価値を下げることは確かだ。

- 観光

八ツ場ダムを中心として、鎌原村（1783 年の浅間山の噴火による熱泥流で壊滅した）の土石流跡との組合せでバスツアーを企画してみたらどうだろうか。好奇心旺盛で体力も金もある団塊の世代がシニア入りをしている。これをつかまえない手はない。NHK を見ていたら、バスツアー企画のプロの話が出ていた。その時こんなことを考えた。そういえば、当研究会は好奇心旺盛なメンバーを連れて、既にそれを実行しているのかもしれない。

【謝辞】

工事に携わり多忙な中、我々素人集団に丁寧な対応をしていただき、深く感謝しております。お蔭様で現地・現物・現人の 3 現を実行でき、現況を知ると共に、国土について考えるきっかけとなりました。今回見学させて戴いた当会会員たちは、国土を保全するのに多くの努力がいることを感じ、機会があるごとに今回の見学の中身を生かして参ることと思います。有難うございました。

以上